

# 2022 年度さくらねこ無料不妊手術事業

## 団体枠アンケート 集計結果

### さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2022 年度は 3,546 名の個人(一般枠)、47 団体、298 の行政と協働し、62,128 頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 25,538 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 3,096 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 32,243 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,251 頭(犬の申請なし)

---

無料不妊手術実施頭数 総合計：62,128 頭

### 1. アンケート概要

2022 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(団体枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※団体枠とは：行政枠に属さない団体、NPO 法人、自治会

団体枠登録対象者

団体枠 A＝【公益財団法人、公益社団法人、NPO 法人、認定 NPO 法人、一般財団法人、一般社団法人】のうち、どうぶつ基金の地域相談窓口として紹介されること、相談者に対応することに同意した団体

※地方公共団体が運営している施設(公園等)の管理を委託されている指定管理者は行政枠にあたるために含まれない。

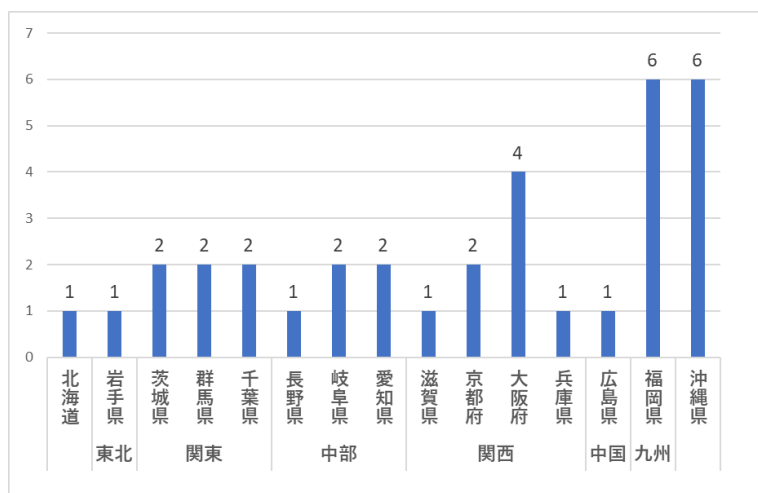
団体枠 B＝学校法人、自治会連合会、自治会(チケット使用対象地域は自治会や学校の管轄内の猫に限る)

- 2022 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請団体数 47 団体
- アンケート対象となる団体枠マイページ登録団体数 65 団体(2023 年 3 月 31 日時点)
- アンケート有効回答数 34 件 (マイページ登録団体数 65 件中)

## 2. 都道府県別団体数

福岡県と沖縄県がそれぞれ 6 団体で最多でした。

全登録団体 65 団体でみても、沖縄県が 11 団体で最多、福岡県 8 団体、大阪府 8 団体が続きます。



※アンケート回答 34 団体の都道府県別

## 3. 配布チケット数について

2022 年度に配布を受けたチケット数	票数	%
1～10	2	6%
11～30	3	9%
31～60	11	32%
61～100	5	15%
100～200	5	15%
201 以上	4	12%
配布なし	4	12%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	13	38%
80～99%	6	18%
60～79%	5	15%
40～59%	1	3%
20～39%	2	6%
1～19%	2	6%
使わなかった	5	15%

71%の団体が 60%以上の使用率でした。

#### 4. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	1	3%
いいえ	33	97%

登録団体が活動する地域の 97%が、不妊手術が必要な猫がいながら行政の支援が受けられない地域です。これだけを見ても、従来の地域猫活動のハードルの高さが分かります。

団体がエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	6	18%
1～5	10	29%
6～10	3	9%
11～15	2	6%
16～20	2	6%
21～30	3	9%
31～50	2	6%
51～80	2	6%
81～150	1	3%
151～250	2	6%
251～500	1	3%

#### 5. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	32	94%
猫の性格が穏やかになった	12	35%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	25	74%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	11	32%
猫の健康状態が良くなった	12	35%
その他	2	6%

アンケートに回答した 34 団体中、32 団体が子猫の数が減ったと回答しています。また、苦情の多い鳴き声やケンカについても 25 団体が減ったと回答しました。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	24	71%
猫の数は変わらない	10	29%
猫の数が増えた	0	0%

昨年度に続き、「猫の数が増えた」を選択した団体はありませんでした。「猫の数が減った」と回答した団体は 71%、現状維持が 29%でした。繁殖を抑える TNR の効果があらわれています。

## 6. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	24	71%
苦情が減った	16	47%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	14	41%
協力してくれるひとが増えた(できた)	27	79%
地域の人に感謝された	20	59%
猫を可愛がってくれる人が増えた	11	32%
その他	0	0%

住民と猫ボランティア(団体)の関係は	票数	%
良くなった	21	62%
変わらない	13	38%
悪くなった	0	0%

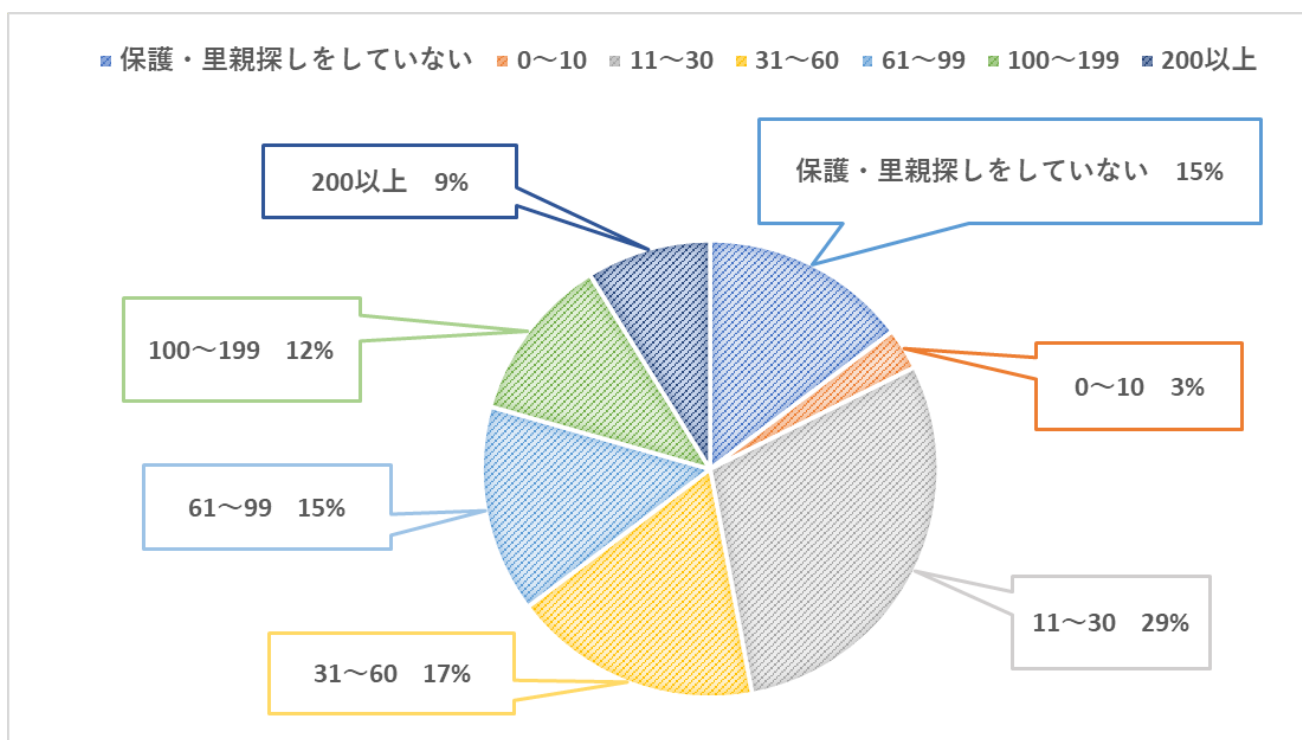
「住民の理解が得られた」「協力してくれるひとが増えた(できた)」と回答した団体は 70%を超えました。不妊手術を終えて元いた場所に戻った猫たちが穏やかに暮らしていくには、やはり地域の理解が必要です。TNR を実施した地域の猫に前項のような変化(子猫を見かけなくなった、鳴き声やケンカが減った等)が現れてくれば、地域住民の猫に対する感情も和らぎます。TNR は、生まれてすぐに殺処分される不幸な命をなくすための活動ですが、それと同時に地域の環境改善のための活動でもあるのです。

理解者や協力者が増えた(できた)という結果は、協働団体が地道に活動し、決して感情的にならず、真摯に地域住民と向き合ってきたからこそその成果だと感じます。

## 7. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	29	85%
いいえ	5	15%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
保護・里親探しをしていない	5	14%
0～10	1	6%
11～30	10	29%
31～60	6	17%
61～99	5	14%
100～199	4	11%
200以上	3	9%



保護や里親探しをしていない 5 団体を除く 29 団体で、で合計 2,573 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	6	18%
1～5	2	6%
6～10	2	6%
11～15	2	6%
16～20	4	12%
21～30	1	3%
31～50	3	9%
51～80	9	26%
81～100	1	3%
101 以上	4	12%

## 8. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	27	79%
資金不足	27	79%
捕獲がうまくできない	7	21%
行政との調整	17	50%
地域住民との調整	18	53%
その他	0	0%
特になし	0	0%

## 9. 飼い猫の捕獲について

2022 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	3	9%
いいえ	31	91%

アンケート回答者 34 団体のうち 3 団体(9%)が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答しましたが、手術まで至った例はありませんでした。

## 10. ピックアップコメント

- 2022 年度の地域猫活動は、チケットによる支援をうけて、オス 140 頭・メス 197 頭の不妊去勢手術を実施することができました。メス 1 頭につき 5 頭の子猫を産むと考えた場合、985 頭の出産を未然に防ぐことができたこととなります。ひとえにご寄付をしていただいた方々の善意のたまものだと感謝しています。今後ともチケットを有効に使わせていただき、不足分は当会負担での手術を実施し、地域猫活動の推進を進めていきたいと思ひます。
- 北海道は極寒な冬に生き延びることが出来ない外猫がおり、どうしても淘汰されてしまうため、外で暮らす猫が大きな問題にならず地域猫がなかなか根付かずひいます。それでも地道に続けていくことで不妊手術の必要性が認識されるようになり、餌を与えるだけの無責任行動をする方は減ってきていると思ひています。野良猫がゼロになることを目指して今後も活動を継続してひいます。
- とても小さな団体ですが、皆様のお陰で年間100頭前後の TNR を行っておりひます。どうぶつ基金のチケットなしに、当団体の TNR 活動は成り立ちません。本当に寄付者の皆様に感謝いたします。少しずつですが、TNR を継続しているエリアでは野良猫の数が減り、さくらねことしてエリア内の猫の数を管理できており、徐々に地域住民の方の理解も得られるようになっておりひます。やはり、シーズンに新たな子猫をほとんど見かけなくなると、住民の方も餌やりボランティアの方に対して協力的になっていくようひです。今後とも、ご支援をよろしくお願ひいたします。
- おかげ様で、どうぶつ基金のチケットでたくさんの野良猫の不妊手術をしてあげることができました。活動している市では、市民からの野良猫に関する苦情が激減したと評判ひです。これからも猫保護活動の仲間と協力して、「人と猫が仲良く共生している街」が一つでも増えるよう TNR 活動を頑張ります。今後ともご支援をよろしくお願ひ申し上げます。
- おかげさまで、さくらねこ活動を始めてから子猫を見なくなりました。糞尿の臭ひの苦情も減っています。今では、さくら耳の猫たちが、団地内で日向ぼっこしているのどかな風景に癒されておひます。あの子達ひが、人と上手に折り合ひて、一日でも長生きできることを祈りながら、これからも活動を続けていきたいと思ひます。
- どうぶつ基金のチケットを利用して先行型 TNR を進めています。手術が終わったさくらねこの認知度も高まっており、猫に関する住民同士のトラブルも減ってきているようひです。これも、どうぶつ基金のチケットで毎月不妊去勢手術を進めることができてひからひです。殺処分、遺棄も減っていると聞ひています。本当にありがとうございました。

## 12. 総括

- ボランティア団体は、日々多くの相談を受けています。ボランティア団体に対応を丸投げするような相談もあるようですが、今回のアンケートでは、相談の質が変わってきているという回答が複数寄せられました。「TNR をしたいがどうすればいいか」「捕獲を手伝ってほしい」「どの病院で野良猫の手術が受けられるか教えてほしい」等、TNR に関する相談が増えているということです。なかには、どうぶつ基金の無料不妊手術チケットを知っている相談者もあり、相談を受けた団体がどうぶつ基金への登録や申請方法を説明しているケースもありました。

「飼い主のいない猫の問題は地域の問題」という考え方からすれば、住民有志や自治会などが自ら問題意識を持って TNR を行うことが理想です。ボランティア団体に寄せられる相談内容に変化が見られることが、その理想に少しずつでも近づいている現れであることを願いつつ、今後も注視していきたいと思えます。

- TNR を行った現場で、その後「猫が増えている」と回答した団体はなく、約 7 割が「猫が減った」と回答しています。別のアンケート項目では「子猫の出産が減った・ほぼゼロになった」との回答が 9 割超に達しており、TNR によって繁殖が抑制され、頭数減に寄与していることが分かります。

また、多くの団体が TNR に理解を示してくれる人が増えていると実感しています。不妊手術を受けて一代限りの命となることで、餌やりさんは猫が増えていくことへの不安やプレッシャーから解放され、地域の方には安心感が生まれます。そのことが新たな協力者を呼び込み、命を見守る優しい空気ができ上ります。TNR 実施後も理解が進まない地域はまだありますが、確実に流れは変わりつつあると実感できるアンケート結果となりました。

- アンケートに回答した 34 団体のうち 27 団体が、今後の課題として「人手不足」「資金不足」をあげています。TNR 活動以外に保護・譲渡活動も行っている団体においては、さらに深刻な課題であると言えるでしょう。シェルター等の運営費用や保護犬・保護猫の医療費、シェルター等の運営に関わるスタッフや外部協力者など、TNR 活動よりもさらに多くの人手と資金が必要です。

TNR と保護・譲渡は、殺処分ゼロ達成のためにどちらも欠かすことはできません。こういった活動が広がったことによって犬猫の殺処分数は確実に減少し、目標達成まであと一歩のところまでできていますが、まだまだ民間主導で行われていることが多く、その費用と労力の大半を民間が負担している現実があります。

行政は予算をしっかりと確保し、専門的な人材を育成する。そのうえで経験豊富な民間ボランティアの協力を得て主体的に取り組んでいく。認定する「地域猫」のハードルを下げることも考えてもらう必要があります。これらができなければ、いずれ活動は継続できなくなります。ボランティア団体は、行政や地域の下請けではなくパートナーです。最終的に行政や地域が自立して活動できるようサポートすることが真の協働であり、その方向にシフトしていくことが課題の解決につながるのではないのでしょうか。